

感染症対策について

平成30年6月28日・7月4日
山梨県中北保健福祉事務所
地域保健課 感染症担当

1

【本日の内容】

- 1 感染症の基本
- 2 結核の基礎知識
- 3 インフルエンザの基礎知識と対策
- 4 ノロウイルスの基礎知識と対策
- 5 感染拡大予防のポイント
- 6 高齢者介護施設における感染対策マニュアル

2

1 感染症の基本

3

【感染症に必要なもの】



どれかを防ぐことが出来れば、
感染症は予防できる！

4

主な感染経路と原因微生物

感染経路	特徴	主な原因微生物
空気感染	咳、くしゃみなどで、飛沫核(5 μ m以下)として空中に浮遊し、空気の流れにより飛散する。	結核菌 麻疹ウイルス 水痘ウイルス 等
飛沫感染	咳、くしゃみ、会話などで感染する。 飛沫粒子(5 μ m以上)は1m以内の床に落下し、空中を浮遊し続けることはない。	インフルエンザウイルス ムンプスウイルス 風疹ウイルス マイコプラズマ肺炎 等
接触感染 (経口感染含む)	手指・食品・器具を介して伝播する。 最も頻度の高い伝播経路である。	ノロウイルス、疥癬 腸管出血性大腸菌、VRE MRSA、緑膿菌 等

5

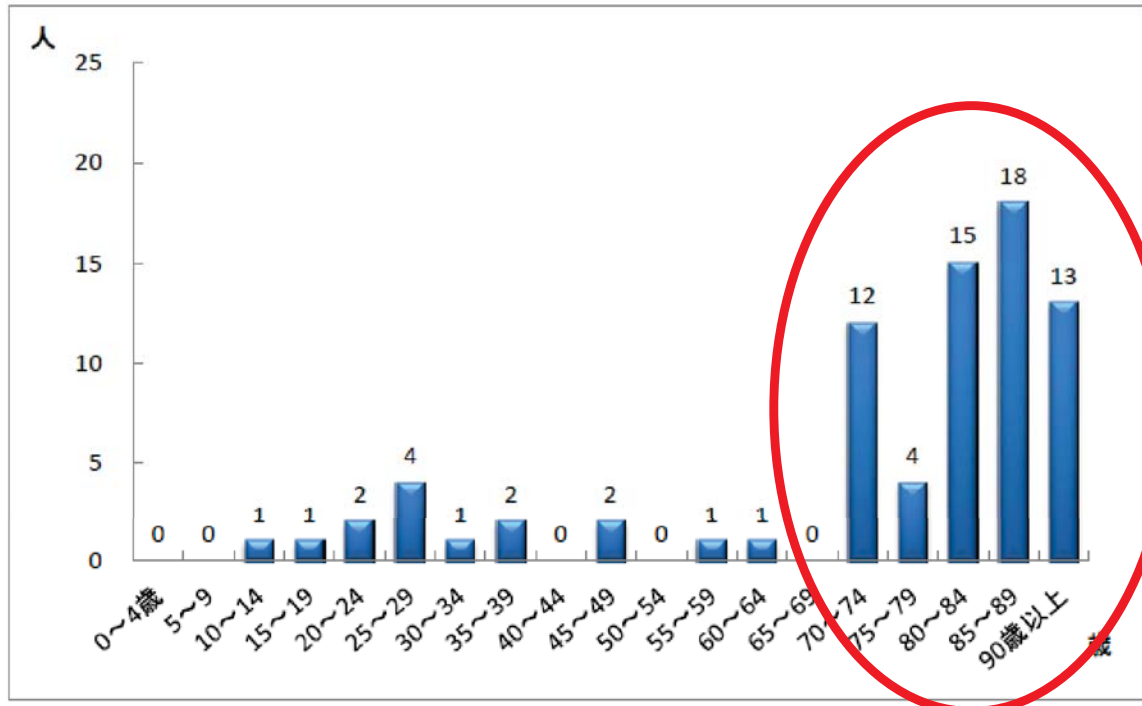
2 結核の基礎知識

6

結核って今もあるの？

(山梨県 2016年)

年齢階級別新登録患者数

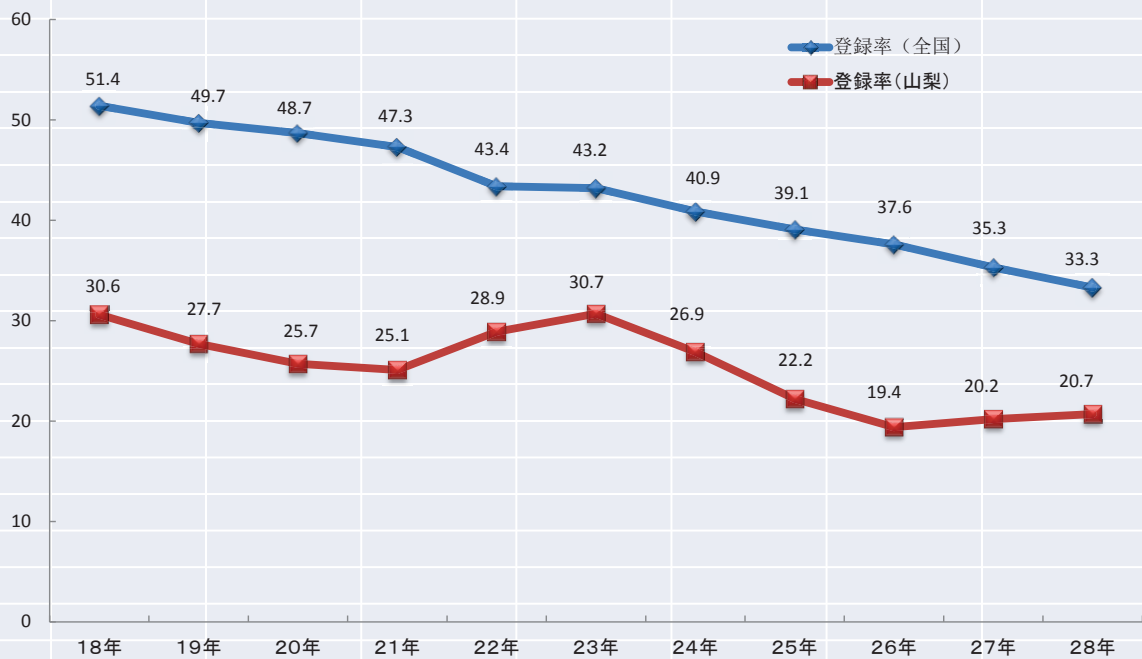


○新登録結核患者の70%以上は65 歳以上

7

結核って今もあるの？

結核登録率（人口10万対）



登録率＝

各年末現在登録者数
各年10月1日現在の人口

×100,000

8

結核を正しく知ろう

○感染と発病は違う

→感染しているだけでは人にうつさない。

発病(咳など)しているとうつす可能性がある。

感染しても発病する人は1~2割のみ

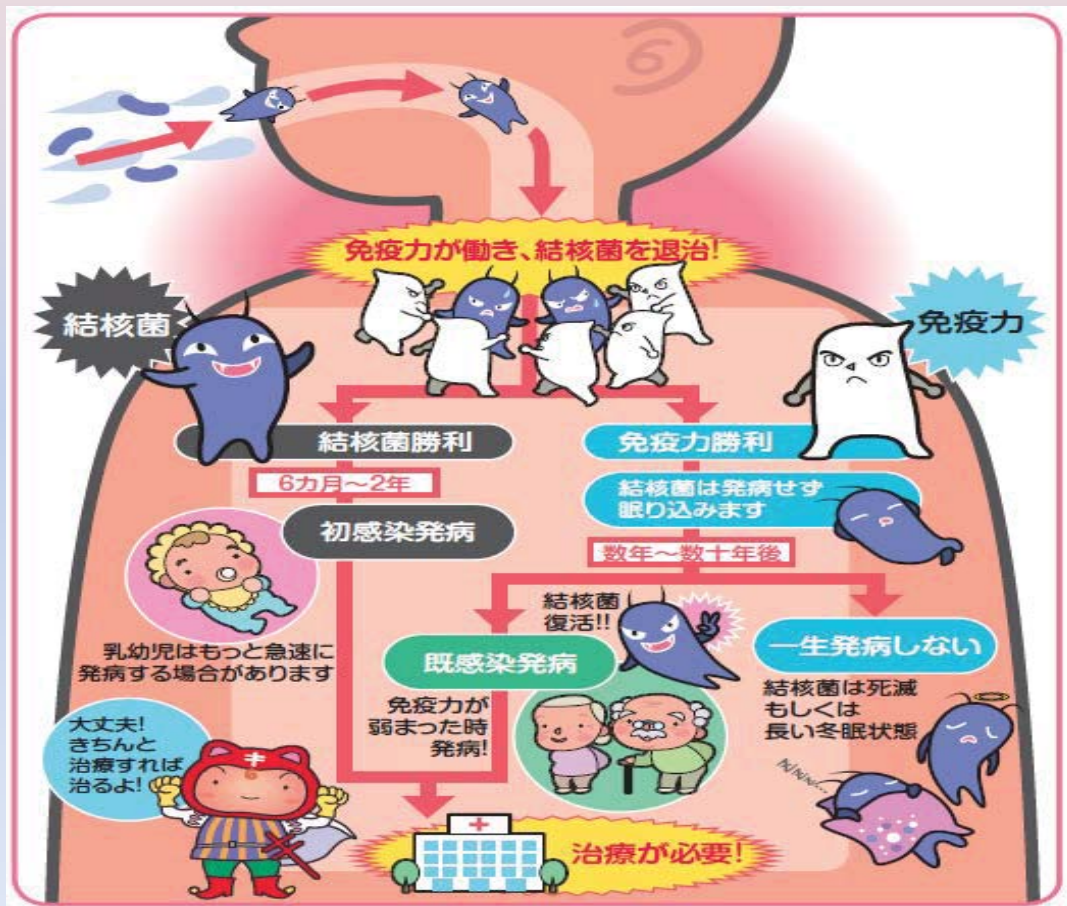
○結核は働き盛りの方も感染・発病する！

職員の定期健診も忘れずに！！

年に1度レントゲン検査が必要。

9

感染と発病の仕組み



10

結核の症状



- 高齢者は、症状が現れにくいこともある
- いつもと違う？と思ったら注意！

11

高齢者の特徴

- 結核の代表的な症状である呼吸器症状が全く出ない人も稀ではない。
- 転倒しやすくなった、発熱が続くなどの症状のみの人もいます。

どうやって発見するのか

→ 定期的な胸部レントゲン検査を受ける！

12

施設利用者で結核患者が出たら

- 保健所では、感染経路・感染拡大防止のため、施設に調査に伺います。
- その調査の中で感染リスクが高い職員や利用者がいると保健所が判断したときは、健康診断の受診を勧告します。

ただし、同時期に2人以上結核患者が出たときや呼吸器症状を呈する方が複数にいるときは、直ちに保健所に連絡をお願いします。

13

施設へのお願い

- 利用者の結核の既往歴を把握してください。
- 体調がすぐれないときは、早めの受診を促してください。
- 利用者に胸部レントゲン検査の重要性をお伝えください。→市町村の健診等を利用し年に1回以上の受診が望ましい。
- 定期的な換気をお願いします。

14

高齢者施設・介護職員対象の 結核ハンドブック

(2016年7月)

公益財団法人結核予防会結核研究所
対策支援部保健看護学科編

15

3 インフルエンザの基礎知識 と対策

16

インフルエンザ

【病原体】 インフルエンザウイルスA型、B型

【感染経路】 飛沫感染、接触感染
(鼻やのどで増殖)

【流行時期】 例年12月～3月下旬

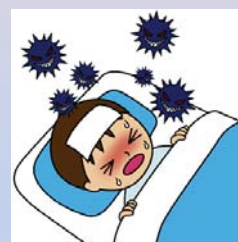
【潜伏期間】 通常1～3日

【症状】 急激な発熱、呼吸器症状、全身症状

【診断】 迅速診断キットが普及

【治療】 抗インフルエンザウイルス薬

【予防】 ワクチン接種



17

インフルエンザの予防

日頃からの予防策・・・

- 手洗い、うがい、咳エチケットの励行
- マスクの着脱の確認、外出時にはマスクを着用
- 換気、温度・湿度管理、衣類での保温調整
- 十分な休養、バランス良い食事、ストレスをためない
- 流行時は人混みを避ける
- 体調チェックと異常時の連絡体制の確立

☆個人はもちろん、家族全員で取り組む
事業所全体でも声をかけあい実行しましょう！



18

「飛沫感染予防」には咳エチケットが有効 かかったかな?と思ったら = 「咳エチケット」



くしゃみや咳が出ている間は、
マスクを正しく着用。

マスクを着用していても、鼻の部分に隙間があったり、

あごの部分が出たりしていると効果がない。

鼻と口の両方を確実に覆う

<正しいマスクの着用>



鼻と口の両方も
確実に覆う



ゴムひもを耳にかける



隙間がないよう
鼻まで覆う

19

感染拡大の防止

職員への周知
情報共有



感染拡大防止策
手洗いの徹底・消毒
マスクと手袋



20

4 ノロウイルスの基礎知識と対策

21

ノロウイルスの特徴



- 感染性胃腸炎の原因ウイルスの1つ
- 1年を通して発生がみられ、通年11月から増加、冬期にピーク
- 感染力が非常に高い。10～100個程度のウイルスでも感染
- 食品中では増殖せず、ヒトの腸管内でのみ増殖
- 感染者の糞便・嘔吐物中には1gあたり数億個のウイルスが排出される
- 抗ウイルス剤がない

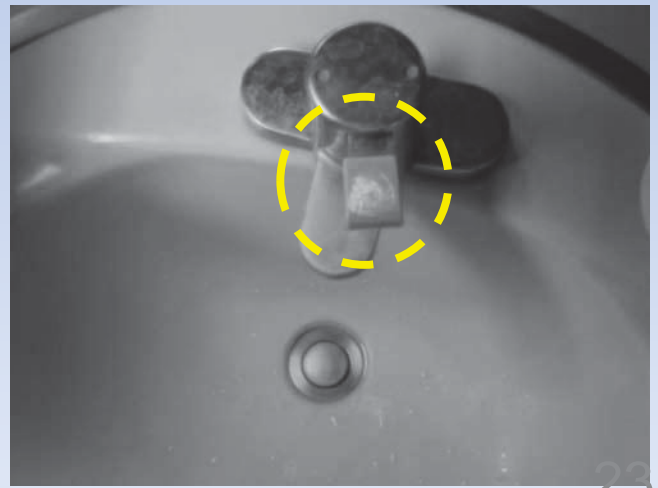
22

ノロウイルスの感染経路

1. 接触感染

～便や嘔吐物に接触した手を介する感染

たとえば、こんなところにウィルスがついていると……



23

ノロウイルスの感染経路

2. 飛沫感染(条件付き)

- 嘔吐時の飛沫
- 口に嘔吐物が残っているときに、咳やくしゃみ



*嘔吐物が飛び散る範囲(東京都調査)

床から1mの高さで吐くと……

○カーペット……最大半径1.8m

○フローリング……最大半径2.3m

広い範囲と靴底に注意!

24

ノロウイルスの感染経路

3. 空気感染(条件付き)

乾燥した嘔吐物や便が、ウイルスを含むほこりとなって空気中に舞い上がる。→塵埃感染

原因:嘔吐物や下痢便の不適切な処理

過去には12日前に処理した嘔吐物
(カーペット上)から感染した事例もある

25

ノロウイルスの対策①

「病原体」:ノロウイルス

○消毒:次亜塩素酸ナトリウム、
加熱85℃ 1分以上

○洗浄:環境の清掃、手洗い

26

ノロウイルスの対策②

「感染経路」: 飛沫感染、接触感染

○飛沫感染→嘔吐後に口の洗浄(ゆすぐ)

○接触感染→1動作1手洗い
手袋の着用

27



5 感染症拡大予防のポイント

28

利用者が多い施設で 感染拡大する理由とは

- ◇ノロウイルスは強い感染力を持っている
- ◇冬場はいたるところで流行しており、
ウイルスが持ち込まれる可能性が高い
- ◇同じ水道やトイレを多くの方が利用する
- ◇手洗いの徹底が難しい
- ◇職員のロッカー、休憩室からの感染拡大

29

1 標準的な感染予防策

- 病原体の有無にかかわらず、感染対策の意識を持つこと
- 作業の前と後に手を洗う
- 汚染されないようにする

30

2 手洗い

- ★正しい手洗いの実施
- ★1つの作業終了毎に手洗いの実施
- ★食事前には必ず手洗いの実施



31

3 感染症ごとの対策

1 経路別の感染対策

- ・接触感染対策
- ・飛沫感染対策

2 隔離対応及び職員の休養の検討

32

4 施設内のこまめな清掃・消毒

- ◆手を触れる場所や身のまわりの物の清潔・消毒
- ◆施設内で人が直接手を触れる場所は、汚染される可能性があり、定期的に消毒する。

例) 手すり、ドアノブ、水道の蛇口、机、引き出しの取っ手、車椅子の押し手、トイレなど

- ★消毒薬は、次亜塩素酸ナトリウム（ハイター等）
- ★濃度や作り方などは適切に。



5 嘔吐物の適正処理

1 事前の準備

職員全員が共有し、日頃からの、練習が必要

①嘔吐処理セットの準備

②手技の統一

③施設内掲示～患者、来所者に嘔吐があった場合、職員へ連絡し、自分で処理しないよう掲示



5 嘔吐物の適正処理

『嘔吐が発生！』発見者は・・・

- ①周囲の人を避難させる
- ②職員を呼び、役割分担を決める
- ③マスク・撥水性使い捨てエプロン・手袋を着用
- ④分担して対応する
 - a 嘔吐した人の対応
 - b 嘔吐物の処理(複数名)
 - c 周囲にいた人の対応

対応することが多いため、
分担できるとスムーズ

35

6 高齢者介護施設に おける感染対策マニュアル

36

高齢者介護施設における 感染対策マニュアル

このマニュアルご存じですか。

このマニュアルを知らない職員
はいませんか。

このマニュアルを活用されてい
ますか。

平成 25 年 3 月

37

【感染対策のために必要なこと】

施設長（管理者）は・・・

- 高齢者の特性、高齢者介護施設の特性、施設における感染症の特徴の理解
- 感染症対策に対する正しい知識（予防、発生時の対応）の習得
- 施設内活動の着実な実施（感染対策委員会の設置、指針とマニュアルの策定、職員等を対象とした研修の実施、設備整備など）
- 関係機関との連携の推進（情報収集、発生時の行政への届出など）
- 職員の労務管理（職員の健康管理、職員が罹患したときに療養に専念できる人的環境の整備など）

職員は・・・

- 高齢者の特性、高齢者介護施設の特性、施設における感染症の特徴の理解
- 感染症に対する基本的な知識（予防、発生時の対応、高齢者が罹患しやすい代表的な感染症についての正しい知識）の習得と日常業務における実践
- 自身の健康管理（感染源・媒介者にならないこと、など）

¹ 本マニュアルは、主として、介護老人福祉施設、介護老人保健施設での活用を想定して作成していますが、その他の高齢者に関わる社会福祉施設や居住系サービス事業所、通所サービス事業所などにおいてもご活用いただけます。

38

職員の予防対策

c. ワクチンによる予防

ワクチンで予防可能な疾患については、職員は可能な限り予防接種を受け、感染症への罹患を予防し、施設内での感染症の媒介者にならないようにすることが重要です。予防接種を受けることができない者には、一般的な健康管理を充実強化することが求められます。

インフルエンザワクチン	毎年、必ず接種しましょう。
B型肝炎ワクチン	採用時に接種しましょう。
麻しんワクチン 風しんワクチン 水痘ワクチン 流行性耳下腺炎ワクチン	これまで罹患したことがなく、予防接種も受けていない場合は、採用時に接種しましょう。 また、感染歴やワクチン接種歴があっても、抗体検査で抗体価の状況を確認しておくといいでしょう。

予防接種の実施に当たっては、職員に対して、予防接種の意義、有効性、副反応の可能性等を十分に説明して、同意を得た上で、積極的に予防接種の機会を提供しましょう。また、接種を希望する職員に、円滑に接種がなされるように配慮しましょう。

なお、委託職員であっても入所者と接する機会が多い場合は、なるべくワクチンを接種することが望まれます。

職員研修会の実施

感染管理に関する研修の種類と内容の例

	対象者	実施時期	内容	形式	講師
新人研修	新規採用者	入職前後	感染症および感染対策の基礎知識	座学形式 実習 (手洗い等)	感染管理責任者など
定期研修	全職員	5~6月	食中毒の予防と対策	座学 グループワーク	外部講師を招いてもよい
		秋季	インフルエンザの予防と対策		
外部研修	希望者 適任者	随時	国や自治体、学会・協会等が主催し、対象職種に求められる最新の知識を伝達するなど	(いろいろな形式がある)	外部専門家
勉強会	希望者	随時	テーマを設定し担当者が発表するなど	事例検討 グループワークなど	感染管理責任者など
OJT*	全職員	通年	日常の業務の中で、具体的なノウハウやスキルを身につける	実務	看護職員、リーダーが随時指導

* OJT : On the Job Training (具体的な業務を通じて、業務に必要な知識・技術などを計画的・継続的に指導し、修得させる訓練手法)

ご清聴ありがとうございました。



中北保健福祉事務所(中北保健所)
地域保健課
電話055-237-1403